

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

「国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する」という教育目標を実現するために、Road to Global Citizen—Think Globally, Act Locally—を掲げ、特色あるプログラムを通じて日常から養える国際感覚と多様性をもつ生徒を育成する。

(2) スクール・ポリシー

○ 立志の精神

国際社会に生きていく人としての自覚をもち、自ら志を立て、未来を切り拓いていく力を育成する。

○ 共生への行動

国際社会にあって、自己の考えを明確にもち、表現できる能力を養うとともに、異なる文化を理解し尊重する態度を育成する。

○ 感動の共有

学校教育のあらゆる場において、生徒の主体性を重んじ、達成感、連帯感を育成する。

(3) 育成したい資質・能力

○ Resilience

難しい課題に粘り強く取り組む姿勢、柔軟な考え方

○ Ambition

目標を設定し、その達成に向けて主体的に取り組む高い志

○ Team Working

仲間を思いやり、集団やチームのために力を尽くす献身性

○ Global Contribution

地球的な視野をもち、地域や社会に貢献しようとする態度

2 中期的目標とその達成に向けた方策

附属小学校と一体的な学校経営を行い、教育目標、目指す学校を具現化するための教育活動を実践することを目標とする。

- (1) 管理運営規程に基づく組織的な学校経営及び企画調整会議を学校経営の中核とするとともに、学年、分掌、委員会、経営企画室の連絡調整・連携を密にし、教職員の力を集結して円滑な学校経営を推進する。中等教育学校における 2-2-2（1・2年：BUILD期、3・4年：CHALLENGE期、5・6年：CREATE期）のフェーズを意識した取組を推進する。
- (2) 学力の三要素の育成を意識した学習指導及び一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する。6年間を見通した効果的な指導を構築し、生徒の習熟の程度や学習状況に応じたきめ細かい指導を通して、確かな学力の向上を図る。そのための教員の教科指導力の向上と授業改善も図る。
- (3) 6年間の中高等教育学校の教育の特長を生かすべく、教育課程の見直しと改善を図る。
- (4) 進路探究部を中心とした6年間の体系的な進路指導計画に基づき、組織的な指導を行う。データとその分析に基づく進路指導及び教科指導、組織的な講習・補習を実施するとともに、保護者との連携に基づいた指導を実現する。
- (5) 探究プログラム「立国LEADERプログラム」の充実を図るとともに、探究的な学びを推進するために、大学や企業、関係機関との連携を活用する。探究的な学びの拠点として、ラーニング・コモンズの機能を活用し、生徒の情報活用能力の向上を図る。
- (6) 小中高一貫教育の特色を活用し、規範意識と道徳心を育み、集団力を高めるとともに、自主自立の精神と自己管理能力を養い、リーダーの素質を育成する。さらに、帰属意識を高め、自分と他者を大切にすることで良好な人間関係を築き、自ら心身を鍛える態度の育成と生徒一人一人が大切にされているという実感がもてる指導の充実を図る。
- (7) 生徒が自己の適性を知り、自信をもって学校内外の活動に取り組み、自己実現の可能性を広げられるように学校全体で推進し、生徒の努力や成果を認める機会の活用や創出を図る。2-2-2のフェーズを意識して指導を行い、生徒自ら「よき立国文化」を継承できるように育成する。
- (8) 生命尊重教育の拡充を図るとともに、生徒の主体的な活動を充実させ自己肯定感を高める。また、基本的な生活習慣の定着を図り、健康保持の自覚、安全指導、問題行動防止、いじめ防止に向けた指導を徹底する。

- (9) 国際社会に貢献できるリーダーを育成するため、本校の特色である「送り出し」「受け入れ」「共有」の充実を図る。
- (10) 学校説明会、見学会、授業公開等の募集活動・広報活動の充実を図り、高い志をもった生徒の入学を促進する。また、保護者及び地域に、本校の魅力をウェブサイトなど活用して積極的に情報発信する。
- (11) 学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画室の学校経営参画を促進し、効率的かつ効果的な学校経営を行う。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的な方策

(1) 教育活動の目標と方策

【学習指導の推進】

(目標) リアルとデジタルの良さを組み合わせながら、生徒が学ぶことの意義を実感できる探究的・実践的な学びを実践する。

- ① 生徒一人一人が意欲的に学びに向かうことができるよう、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- ② 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力や他者と協働する力などの基盤的な力を着実に育成する。
- ③ 自学自習の習慣や計画的な学習習慣を身に付けさせ、確実な学力の向上を図る。
- ④ デジタル技術を活用した授業の効果的な実践を推進する。
- ⑤ 模擬試験結果や生徒による授業評価の分析に基づく授業改善を推進する。

【進路指導の充実】

(目標) 進路探究部を中心に、データを活用した進路指導と立国イズム（最後まで諦めない、高みを目指す、チームで実現する、塾に任せない）の指導により、学年・教科が有機的に機能する組織体制を構築し、進路指導の充実を図る。

- ① 学力向上のために、自習室の活用やチューターによる指導、SSC (Self-Study Club) など、自学自習の習慣確立を図るように指導する。
- ② 進路選択の複線化（国内大学、海外大学）や、大学入試受験方法の多様化（一般受験、総合型選抜、学校推薦型選抜）などに対して、柔軟に対応する。
- ③ 進路探究部と学年担任とが連携し、的確な進路情報の提供、生徒の学力分析、面談の実施、講演会や進路体験等の進路行事の充実を推進し、生徒の進路意識の喚起を図る。
- ④ 模試分析（大学入学共通テスト分析を含む）、ケース会議の悉皆研修を実施し、教科会、教科主任会と連動させて、実際の授業における指導に繋げる。
- ⑤ 保護者会や三者面談等において、データを活用した根拠に基づく指導事例などを伝え、保護者から信頼される進路指導に取り組む。

【探究学習の推進】

(目標) 「立国LEADERプログラム」を実践し、自ら課題を見付け出し、主体的に解決する資質・能力を育て、自己実現の可能性を広げる。

- ① 探究セクションと副担任の探究担当が中心となって、「立国LEADERプログラム」を推進する。
- ② 全ての教員で探究学習の論文指導を行うとともに、探究学習の成果発表の実施と、専門家による探究学習の価値付けを実現する。
- ③ 1・2年で探究教養、3年で探究専攻準備（探究計画作成、提出）、4・5年で探究専攻、6年で自己探究（自己の在り方・生き方を考える、探究専攻の成果を進路に活用する）として、6年間の系統的な探究学習を行う。
- ④ 3分野（「社会課題探究」「理数探究」「地域提案型探究」）の探究学習を深化させる。
- ⑤ 2年生で実施する「職業体験」を「立国LEADERプログラム」と接続して実施し、アントレプレナーシップ入門、課題研究（探究学習に繋がる発展的調べ学習の実施）につなげる。

【理数教育の充実】

(目標) 理数に興味・関心をもつ生徒に特色ある取組を実施して、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす。

- ① 「立国LEADERプログラム」における「理数探究」を推進する。
- ② 理科の授業における実験の一層の推進と実験内容の深化を図る。
- ③ 大学や民間企業と連携して、「科学研究部」「自然探究部」の充実を図る。

【 学校行事の充実 】

(目標) 伝統的な活動を維持しつつ、生徒の主体性と多様性の尊重を軸とした内容の充実に取り組み、リーダーとしての素養を育成できるように活動を充実する。

- ① 学校行事を通じて「チーム立国」の一員としての帰属意識を一層高めるため、学校行事の充実を図るとともに、系統的な年間計画を構築する。
- ② 三祭（体育祭、紫翠祭、合唱祭）の企画から実施まで、生徒の主体的な態度を育成して、全ての生徒が深い感動や達成感を得られる活動となるように支援する。
- ③ 学校行事などにおいて、附属小学校との交流も含めた、本校独自の異校種・異年齢活動を実施する。

【 生活指導の推進 】

(目標) 基本的な生活習慣を確立するとともに、生徒が規範意識と道徳心を育み、生徒の努力や成果を評価し自己肯定感の向上を図る。

- ① 規範意識を高め、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度を育成するとともに、自分で判断し決定して実行する自己指導能力の育成を図る。
- ② 身だしなみや挨拶の励行など、規律ある安全な生活の充実を図る。
- ③ いじめ等の未然防止に向け、年間3回のいじめアンケートを実施して、組織的かつ迅速な対応ができるよう校内体制を強化する。

【 生徒の体力向上及び健康の保持増進 】

(目標) 生徒が安全安心な学校生活を送り、生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

- ① 体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成する。
- ② 生徒自らが健康を意識し、自己の健康管理に努めることを通して、進んで健康づくりを実践できる能力を育てる。
- ③ スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター等と関係部署の連携を深め、教育相談体制の充実を図り、日頃の生活状況やいじめアンケート等に基づく個々の生徒の状況把握に努め、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施する。
- ④ 組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上を図り、生徒の悩みに起因する事故の未然防止に取り組む。生徒と教員の関わりを深め、SOSを発信しやすい環境の充実を図る。
- ⑤ 災害安全・生活安全教育を推進するとともに、生命尊重の視点に立った生活指導、安全指導を徹底し、生徒の健全育成を推進する。

【 国際教育の特色化 】

(目標) Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20 (GE-NET20) の指定校として、「送り出し」、「受け入れ」、「共有」プログラムをより一層充実させ、グローバル人材の育成、国際社会のリーダーとなる素地を養う。

- ① 教科活動及び学校行事などの全ての教育活動を通じて、グローバル人材の育成を図る。
- ② TOKYO GLOBAL GATEWAY（1年）、英語合宿（2年）、英語劇（3年文化祭）、イングリッシュ・サマーセミナー等を通して、コミュニケーションツールとしての英語活用能力を高める。
- ③ 「送り出し」として、オーストラリア・スタディツアー（5年）、次世代リーダー育成道場（3年生以上希望者）等の機会を通じて、英語活用能力の実践の機会を創出する。
- ④ 「受け入れ」として、海外からの短期留学や学校訪問、オンライン交流などに積極的に取り組む。
- ⑤ 「共有」として、海外帰国・在京外国人生徒枠で入学した生徒に活躍の場を提供するとともに、「国際交流セミナー」、「グローバル・アカデミー」、留学生との交流等の充実を図る。
- ⑥ 第二外国語講座の内容充実を図るとともに、英語教育の成果検証と分析を行い、授業力向上に資する。

【 中等教育学校の広報活動の強化 】

(目標) 積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。

- ① 学校説明会、見学会、授業公開、小学校訪問、塾訪問など広報活動の工夫を図り、本校で意欲的な活動を希望する生徒を積極的に募集する。
- ② 学校説明会等において、生徒が説明役などで登壇することで、保護者や小学生に対する効果的な広報を展開する。また、外部の説明会にも積極的に参加し、広報活動を強化する。
- ③ 学校の情報発信の場であるウェブサイトを随時更新し、知りたい情報をすぐに見付けられるように工

夫する。また、都立学校保護者コミュニケーションシステム「Classi 東京都版」を活用し、保護者には、適宜、学校の様子を伝えるとともに、意見聴取の場面を設定することで、開かれた学校となるよう推進する。

【 「よりよい6年間」「攻める12年間」の教育課程編成の検討 】

(目標) 次期学習指導要領の改訂を見据え、かつ、令和10年度に附属小学校からの進学を考慮して、教育課程の編成を検討する。

- ① 中等教育学校の6年間を見通した「立国LEADERプログラム」における意図的・計画的な教育課程を充実させるとともに、令和10年に附属小学校からの進学してくる生徒と、中等教育学校から入学してくる生徒との混在後の6年間を含めた12年間「立国LEADERプログラム」を構築する。
- ② 学校行事の実施時期や実施形態、精選も含めて検討する

【 附属小学校と中等教育学校の協働 】

(目標) 附属小学校との連携行事を効果的・効率的に推進する。

- ① 中等生による読み聞かせ等、附属小学校の児童と中等教育学校の生徒との交流活動の充実を図る。
- ② 中等教育学校生徒会によるレクリエーションの継続と充実、また、附属小学校の児童を対象とした部活動の公演などを実施する。
- ③ 附属小学校校舎の利活用について、附属小学校の教育活動を優先に、中等教育学校生徒の教育、学校行事、部活動等での利用を促進する。

(2) 学校経営の重点目標と方策

- ① 全教職員が、中等教育学校及び附属小学校の一体的な運営に対する意識を高め共有することで、校内組織体制の強化と改革を推進する。
- ② 企画調整会議、教科主任会議、PDCA会議の機能の充実と委員会の活用による共通理解を図る。
- ③ 全教職員で適性検査業務を運営するとともに、入学者決定業務を適正かつ確実に実施する。
- ④ 広報活動、SSC (Self-Study Club) について、全ての教員による全校体制で取り組む。
- ⑤ 若手教員の教科指導力などの向上のため、組織的な支援体制を構築する。
- ⑥ 読書活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。
- ⑦ 自転車乗車用ヘルメット着用の徹底を図り、生徒の安全の向上を図る。
- ⑧ 校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動を実践する。
- ⑨ 教員の負担の軽減を図るとともに、部活動の指導を充実していくため、部活動指導員や外部指導者などの外部の指導者を含めた指導体制を構築する。
- ⑩ 都立高等学校校校内別室指導推進事業を活用し、不登校・中途退学の未然防止や早期支援に取り組む。
- ⑪ SOSの出し方に関する教育の実施、居心地向上検証プロジェクト、自殺対策に資する教育を行う。
- ⑫ 「立川国際中等教育学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、「いじめをしない、させない、見過ごさない」態度を育成するため、いじめ防止の学習プログラムの実施、いじめ問題解決のための教員研修プログラムを実施する。
- ⑬ 校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感と倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底し、体罰や暴言のない指導、3ない運動プラス、服務事故根絶を達成する。
- ⑭ 東京都子ども基本条例や人権教育に関する法令等及び人権課題についての正しい理解と認識を深め、立国ルールである生徒の呼称と、個人情報を取扱う際には複数人による複数回点検を徹底する。
- ⑮ ICT機器を活用した企画調整会議等のペーパーレス化、デジタル掲示板を活用した情報共有・連絡体制の構築、また、教科指導以外の業務の精選と効率化、さらに、週に一回以上の定時退庁の実施など、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ⑯ 施設・設備等を計画的に整備し、良好な教育環境のための予算編成を組むことで、充実した教育活動を実現し、働きやすい職場環境を創出する。
- ⑰ 経営企画室の学校経営参画を促進し、業務の進捗状況を適切に管理するとともに、生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善を随時実施する。

(3) 数値目標

①学校運営・組織

- 学校評価：生徒・保護者の満足度：85%
- 服務事故の発生件数：0件

②学習指導

- 自宅学習時間 1・2年生：90分 3年生：150分 4・5年生：180分 6年生：240分
- 教員相互の授業観察：各学期に1回以上

③生徒の挑戦促進

- コンテスト等への参加実績：10件

④進路指導

- 進路だより発行：7回以上
- 長期休業日中の講習
 - 夏期講習：全学年実施 120講座 受講者延べ1200人 参加率90%
 - 冬期講習：全学年実施 20講座 受講者延べ200人 参加率90%
 - 春期講習：全学年実施 20講座 受講者延べ200人 参加率90%
- 大学入学共通テスト受験率：100%
- 大学入学共通テスト6教科8科目型受験：70人
- 現役合格 難関国立大学（東大、京大、一橋大、東科大、国公立医）合格：10人
国公立大学合格：30人
難関私立大（早大、慶大、上智大、理科大）合格：60人

⑤生活指導

- 学校行事への生徒・保護者の満足度：85%以上
- 附属小学校との連携による行事：5件
- 規範意識、道徳心・帰属意識、いじめ防止意識を育成する取組：5件

⑥安全教育・健康教育

- 前期避難訓練：11回、後期避難訓練：4回
- 地域や関係機関と連携した防災教育：1回

⑦生徒募集・広報

- 説明会・授業公開参加者数：3000人
- Webサイト更新：250回以上
- 広報誌Tach i koku Times発行：10回
- 一般枠応募倍率：3.0倍

⑧探究的な学び

- ラーニング・コモンズでの発表活動：5回
- 関係機関・大学等との連携事業数：5件

⑨国際教育

- 国際教育の生徒・保護者の満足度：85%
- 英検取得者数 1級：6名、準1級：50名 2級・準2級：100名

⑩ライフ・ワーク・バランス

- 夏季休暇取得率：100%
- 年次有給休暇取得：一人平均 年間15日
- 超過勤務時間一月当たり45時間以下の教員割合：8割

⑪経営企画室との連携

- 管理運営費と自律経営推進予算の執行率：90%